

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成27年2月13日

【四半期会計期間】 第9期第3四半期(自平成26年10月1日至平成26年12月31日)

【会社名】 株式会社アスラポート・ダイニング

【英訳名】 Asrapport Dining Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 檜垣 周作

【本店の所在の場所】 東京都港区高輪二丁目16番29号

【電話番号】 03-6459-3231(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 中村 敏夫

【最寄りの連絡場所】 東京都港区高輪二丁目16番29号

【電話番号】 03-6459-3231(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 中村 敏夫

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第8期 第3四半期 連結累計期間	第9期 第3四半期 連結累計期間	第8期
会計期間		自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日	自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高	(千円)	6,552,833	8,167,895	9,396,404
経常利益	(千円)	234,284	450,166	460,957
四半期(当期)純利益	(千円)	155,035	383,938	300,648
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	156,217	398,633	308,388
純資産額	(千円)	1,653,374	2,419,452	1,886,491
総資産額	(千円)	8,403,048	10,570,300	9,728,362
1株当たり四半期(当期)純利益金額	(円)	8.48	20.37	16.41
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	8.19	19.61	15.83
自己資本比率	(%)	18.3	21.7	18.0

回次		第8期 第3四半期 連結会計期間	第9期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日	自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	2.72	6.88

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、第1四半期連結会計期間において、新たに設立したASRAPPORT FRANCE SASを、第2四半期連結会計期間において、レゾナンスダイニング株式会社の株式を取得したことから、連結の範囲に含めております。

また、当第3四半期連結会計期間において、英国法人T&S Enterprises (London) Limited、S.K.Y. Enterprise UK Limited及びSushi Bar Atari-Ya Limitedの3社の株式を取得したことから、当第3四半期連結累計期間より、持分法適用の範囲に含めております。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀の金融政策により景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。

外食産業におきましては、業態により堅調な消費が見られるところは一部あるものの、円安等による原材料価格の上昇、人材不足による人件費の上昇など、引き続き厳しい経営環境が続いております。

このような中で、当社グループは「食のバリューチェーンを構築する」という目標を掲げ、「既存ブランドの競争力強化と成長」、「ブランド・ポートフォリオの多様化」、「海外市場への進出」、「食品生産事業と六次産業化への取り組み」の各課題に取り組みました。

株式会社プライム・リンクでは、「牛角」がファミリー層への取り組みを強化、夏場に投入した人気キャラクターを使ったお客様向けのキャンペーンやテレビCMなどの効果の他、秋のグランドメニューで本格的に投入した高単価・高品質メニューも好評で業績は堅調に推移しました。また「とりでん」では、季節メニューの投入によるリピーターの増加、映画とのタイアップによる新規顧客の獲得に取り組みました。

株式会社とり鉄では名物商品の強化、メニュー数の絞り込み等によるオペレーション及び食材管理の効率化に取り組む一方、多言語対応のメニュー等の整備を行い、増加する外国人観光客の取り込みにも力を入れました。

また、レゾナンスダイニング株式会社が運営する鳥業態のブランド「ちどり亭」「浪花屋鳥造」については、小型店舗が中心で親鶏を原料に使用するなど特徴のある「ちどり亭」が好調に推移しました。

こうした結果、外食事業における既存店売上高前年同期比においては、「牛角」101.4%、「とりでん」98.0%、「おだいどこ」96.8%、「とり鉄」99.5%、「ちどり亭」103.7%、「浪花屋鳥造」98.0%、グループ全体で100.1%となりました。

乳製品メーカーの株式会社弘乳舎は、従来からの乳製品加工受託や加工乳製品の製造・販売に加え、新たに事業化した脱脂濃縮乳等の液状乳製品、アイスクリームやデザート等の製造・販売の伸びにより堅調に売上が推移いたしました。

また、株式会社フードスタンドインターナショナルの洋菓子製造販売部門であるGOKOKUは、これまで関西のみで実施していた催事販売を関東でも開始し、販路拡大と関東でのブランド認知の獲得に取り組みました。

以上により、当第3四半期連結累計期間の売上高は8,167百万円（前年同四半期比24.6%増）、営業利益は502百万円（前年同四半期比89.8%増）、経常利益は450百万円（前年同四半期比92.1%増）、四半期純利益は383百万円（前年同四半期比147.6%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

店舗運営

当第3四半期連結会計期間末における当社グループの直営店舗数は47店舗となり、前年同期に比べ3店舗減少しました。「ごどり亭」4店舗、「浪花屋鳥造」2店舗、その他1店舗が加わった一方、「とり鉄」はフランチャイズ加盟店への譲渡等により4店舗が減少し、「おだいどこ」、「たこばやし」他計6店舗を閉店しました。その結果、店舗運営の売上高は2,090百万円（同6.2%減）、営業利益137百万円（同155.7%増）となりました。

フランチャイズ

当第3四半期連結会計期間末における当社グループのフランチャイズ店舗数は382店舗となり、前年同期に比べ、80店舗の増加となりました。レゾナンスダイニング株式会社の子会社化により、「ごどり亭」56店舗、「浪花屋鳥造」28店舗 が加わり、また「牛角」で7店舗、その他ブランドで1店舗が増加した一方、「とりでん」、「おだいどこ」、「たこばやし」他で計12店舗が減少しました。その結果、フランチャイズの売上高は2,983百万円（同16.9%増）、営業利益1,077百万円（同33.0%増）となりました。

「浪花屋鳥造」のうち2店舗は、株式会社プライム・リンクがフランチャイジーとして直営運営しており、上記「店舗運営セグメント」でも店舗数に算入しています。

食品

食品事業においては、乳製品メーカーである株式会社弘乳舎において特に液状乳製品の製造・販売やアイスクリームやデザートを受託製造が伸長したことにより、食品の売上高は2,215百万円（同112.5%増）、営業利益は56百万円（前年同四半期は営業損失29百万円）となりました。

その他

転貸における売上、加盟企業向け販促物の売上、通販や催事における商品売上、食材の外部販売売上等により、売上高は877百万円（同20.4%増）、営業利益142百万円（同146.7%増）となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	49,500,000
計	49,500,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年2月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	19,117,915	19,117,915	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株 であります。
計	19,117,915	19,117,915		

(注) 「提出日現在発行数」欄には、平成27年2月1日から本四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年10月1日～ 平成26年12月31日		19,117,915		816,164		516,164

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成26年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 2,400		
完全議決権株式(その他)	普通株式 19,114,700	191,147	
単元未満株式	普通株式 815		
発行済株式総数	19,117,915		
総株主の議決権		191,147	

【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社アスラポート・ ダイニング	東京都港区高輪二丁目16 番29号	2,400		2,400	0.01
計		2,400		2,400	0.01

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成26年10月1日から平成26年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、東陽監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,650,084	2,539,752
受取手形及び売掛金	1,078,951	1 1,349,598
商品及び製品	406,477	272,550
仕掛品	8,196	4,355
原材料及び貯蔵品	35,769	35,834
その他	774,305	954,552
貸倒引当金	14,477	10,287
流動資産合計	4,939,307	5,146,357
固定資産		
有形固定資産		
土地	1,397,300	1,397,300
その他(純額)	742,670	703,199
有形固定資産合計	2,139,970	2,100,499
無形固定資産		
のれん	1,628,727	1,884,399
その他	30,582	32,250
無形固定資産合計	1,659,310	1,916,649
投資その他の資産	989,775	1,406,794
固定資産合計	4,789,055	5,423,943
資産合計	9,728,362	10,570,300

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	649,354	1 895,331
短期借入金	608,600	141,380
1年内返済予定の長期借入金	982,323	1,350,719
未払法人税等	84,566	69,856
賞与引当金	30,692	13,119
店舗閉鎖損失引当金		6,604
資産除去債務	3,835	3,835
その他	913,723	1,005,405
流動負債合計	3,273,095	3,486,253
固定負債		
社債	122,500	289,000
新株予約権付社債	75,000	
長期借入金	3,306,084	3,267,888
役員退職慰労引当金	50,862	
退職給付に係る負債	91,571	70,940
資産除去債務	83,666	89,479
その他	839,091	947,286
固定負債合計	4,568,775	4,664,594
負債合計	7,841,870	8,150,847
純資産の部		
株主資本		
資本金	741,591	816,164
資本剰余金	699,888	774,461
利益剰余金	314,831	698,770
自己株式	1,428	1,428
株主資本合計	1,754,882	2,287,967
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	846	8,036
為替換算調整勘定		15,263
その他の包括利益累計額合計	846	7,227
新株予約権	45,741	30,922
少数株主持分	85,021	93,334
純資産合計	1,886,491	2,419,452
負債純資産合計	9,728,362	10,570,300

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	6,552,833	8,167,895
売上原価	3,931,487	5,250,822
売上総利益	2,621,346	2,917,072
販売費及び一般管理費	2,356,785	2,414,841
営業利益	264,560	502,231
営業外収益		
受取利息	4,024	12,128
その他	20,475	21,174
営業外収益合計	24,499	33,302
営業外費用		
支払利息	26,995	59,018
持分法による投資損失		6,014
その他	27,779	20,335
営業外費用合計	54,775	85,367
経常利益	234,284	450,166
特別利益		
固定資産売却益	340	682
受取補償金		43,253
環境安全対策引当金戻入額	24,108	
役員退職慰労引当金戻入額		50,862
その他	3,915	9,500
特別利益合計	28,364	104,298
特別損失		
固定資産売却損	184	
固定資産除却損		5,447
減損損失		431
店舗閉鎖損失	13,884	10,871
店舗閉鎖損失引当金繰入額	2,860	6,604
その他	34,004	2,021
特別損失合計	50,935	25,376
税金等調整前四半期純利益	211,713	529,088
法人税、住民税及び事業税	16,270	114,652
法人税等調整額	39,739	22,184
法人税等合計	56,009	136,836
少数株主損益調整前四半期純利益	155,704	392,251
少数株主利益	668	8,313
四半期純利益	155,035	383,938

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	155,704	392,251
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	513	8,882
為替換算調整勘定		15,263
その他の包括利益合計	513	6,381
四半期包括利益	156,217	398,633
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	155,548	390,320
少数株主に係る四半期包括利益	668	8,313

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(1) 連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間において、新たに設立したASRAPPORT FRANCE SASを、また、第2四半期連結会計期間において、レゾナンスダイニング株式会社の株式を取得したことから、連結の範囲に含めております。

(2) 持分法適用の範囲の重要な変更

当第3四半期連結会計期間において、英国法人T&S Enterprises (London) Limited、S.K.Y. Enterprise UK Limited及びSushi Bar Atari-Ya Limitedの3社の株式一部取得により、当第3四半期連結会計期間より持分法適用の範囲に含めております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
受取手形	千円	3,742千円
支払手形	千円	811千円

2. 一部の連結子会社は、資金調達の機動性を高めるため、取引銀行と当座貸越契約を締結しております。なお、当四半期連結会計期間末日における当融資枠に基づく借入の実行状況は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
当座貸越限度額	1,380,000千円	1,080,000千円
借入実行残高	400,000千円	千円
差引額	980,000千円	1,080,000千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び前第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産等に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
減価償却費	96,111千円	126,851千円
のれんの償却額	79,410千円	133,407千円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	店舗運営	フランチャイズ	食品	計		
売上高						
外部顧客に対する売上高	2,227,925	2,553,208	1,042,666	5,823,800	729,032	6,552,833
セグメント間の内部売上高 又は振替高		295,161		295,161	1,345	296,507
計	2,227,925	2,848,369	1,042,666	6,118,961	730,378	6,849,340
セグメント利益	53,629	810,145	29,213	834,561	57,663	892,224

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、フランチャイズ加盟店及び一般飲食店への販売促進コンサルティング事業、飲食店舗転貸事業及び店舗開発事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	834,561
「その他」の区分の利益	57,663
全社費用(注)	627,663
四半期連結損益計算書の営業利益	264,560

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「食品」セグメントにおいて、第2四半期連結会計期間より株式会社弘乳舎の株式取得による連結子会社化に伴い、のれんが発生しております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては1,423,350千円であります。

「店舗運営」セグメントにおいて、(株)フードスタンドインターナショナルの事業譲受に伴い、のれんが発生しております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては23,507千円であります。

当第3四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	店舗運営	フランチャイズ	食品	計		
売上高						
外部顧客に対する売上高	2,090,448	2,983,712	2,215,915	7,290,075	877,819	8,167,895
セグメント間の内部売上高 又は振替高	22	510,191	27,459	537,673	6,508	544,182
計	2,090,471	3,493,903	2,243,375	7,827,749	884,327	8,712,077
セグメント利益	137,114	1,077,822	56,501	1,271,438	142,274	1,413,713

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、フランチャイズ加盟店及び一般飲食店への販売促進コンサルティング事業、飲食店舗転貸事業及び店舗開発事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の内容

(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,271,438
「その他」の区分の利益	142,274
全社費用(注)	911,481
四半期連結損益計算書の営業利益	502,231

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「店舗運営」セグメントにおいて、割引前将来キャッシュ・フロー総額が帳簿価額に満たない店舗については、帳簿価額を回収可能額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において431千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

「店舗運営」及び「フランチャイズ」セグメントにおいて、第2四半期連結会計期間よりレゾナンスダイニング株式会社の株式取得による連結子会社化に伴い、のれんが発生しております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては383,478千円であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	8円48銭	20円37銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	155,035	383,938
普通株主に帰属しない金額		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	155,035	383,938
普通株式の期中平均株式数(株)	18,274,145	18,851,952
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	8円19銭	19円61銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)		154
(うち支払利息(税額相当額控除後))(千円)	()	(154)
普通株式増加数(株)	663,871	735,305
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	第5回新株予権 普通株式 570,000株	第5回新株予権 普通株式 570,000株

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年 2月13日

株式会社アスラポート・ダイニング
取締役会 御中

東陽監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 吉 田 光 一 郎 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 千 島 亮 人 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アスラポート・ダイニングの平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成26年10月1日から平成26年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アスラポート・ダイニング及び連結子会社の平成26年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。